

I 平成 27 年度事業の成果と課題

10 年目を迎えた食育サポートセンターは認知度も上がり、平成 27 年度も「あすなろ隊」の活動は県内一円からの多様な団体のニーズに応えることができた。本学生の「あすなろ隊」への登録者数は、平成 26 年度の 181 名に対し 206 名と増加し、食育支援活動回数は、平成 26 年度の 24 回に対し、19 回と減少したものの、地域の食育推進に引き続き貢献できたと思われる。教材の貸出による支援回数は平成 26 年度の 31 回に対し 32 回と、県内外の食育活動に幅広く活用されている。

平成 27 年度の活動としては、例年どおり健康栄養学科 1 年生を対象に実施している味覚教育、専門教育科目の食育に関する学外実習の取り組み、学生食育ボランティアの派遣、県の委託事業である「食育推進リーダー養成講習会」の実施等に取り組んだ。

今年度、昨年同様に神崎市と共催にて学生主体で企画・運営を行った食育講座「食まなび塾」の第 3 弾では、第 2 次神崎市食育推進基本計画「きらりかんざき食育プラン」におけるアクションプランの「だしとりマスター養成塾」事業を組み込んで実施した。今回は市の中心部にある神崎市中心公民館を利用し、だしとり体験に加え、子どもたちに育んでもらいたい力（マナー、料理のスキル、食文化など）を楽しく実践させる体験型講座とした。講座を行うにあたり、市の食育推進活動に貢献できたと思われる。

県の委託事業である「食育推進リーダー養成講習会」では、「時間栄養学」に視点を置いた講習会を開催し、133 名の参加者を得た。事例として、佐賀県の食育の取り組みについて発表を行い、ミニディスカッションでは講演、事例発表について、様々な感想や気づきを話し合い、各機関・団体の活動の啓発や連携・協働に貢献できた。

学生の食を通したボランティア活動は学生の異世代交流に役立っており、学生による活動後の自己評価では、平成 26 年度に比べ、企画力、創造力が向上した結果となった。また、派遣先からは礼儀・マナーや活動に対する責任感、規律性、協働力などについて評価されている。

今後も、多くの学生が積極的に参画し、教員と協働して大学の食を通した地域貢献活動を強化していくことが必要と思われる。

主な成果

- ①「食育サポートセンター」が食育の拠点として定着している。
- ②学生の食を通したボランティア意識が着実に広がっている。
- ③神崎市との共催した食育講座「食まなび塾」を通して、神崎市の食育推進に貢献できた。
- ④保育園、小学校、地域での食育活動に参画することで、学生が異世代交流を体験できた。

課題

- ①関係教員が個々の専門性を生かし、あすなろ隊へ助言、指導を行い、食育プログラムの構築について更に積み重ねていく必要がある。
- ②活動を通して、学生の学習意欲に関する行動変容、活動実施に関する事業評価指標を確立させていく必要がある。

平成 27 年度食育サポートセンター事業評価及び課題

事業区分	担当事業	事業評価	課題
推進体制	食育サポート運営委員会の主宰	委員会には、部会が設置できることから実務レベルの作業部会において、各事業の企画について円滑に取り組むことができた。 平成 26 年度に引き続き、学長が「食育ネットワークさが」の会長に就任され、構成団体へ大学の周知が更に拡大した。	学生組織の強化と自主活動を推進していく必要がある。 構成団体との連携を強化する必要がある。
	学内組織への参画	「あすなろうセンター」への食育に関する学外活動の情報提供を行い、連携を図ることができた。	学外活動体験に関する連携が引き続き必要である。
	学生食育ボランティアの組織体制	平成 27 年度学生食育ボランティア「あすなろ隊」隊員数は 206 名であったが、活動する隊員が固定化している傾向が見受けられる。 組織化したグループの「きずなレポーターグループ」は県内の食と農に関する情報を発信した。	隊員の実質的な活動が定着するように更に支援していく必要がある。 学生の自主性を尊重した主体的な活動を推進していく必要がある。
	県の委託事業等の実施	県より受託し実施している「食育推進リーダー養成講習会」は 10 年目となった。生産現場・地域で活動するふさと先生や食生活改善推進員等、食育推進に関わる関係者の共通理解が得られるとともに、修了者の地域での活動は定着してきている。平成 27 年度は、「時間栄養学」に視点を置いた講習会を開催し、体内時計と栄養・食の関係について学び、参加者の地域での活動に活かせる考える。	研修内容や講師の選定について検討する必要がある。
専門教育	専門教育科目への食育の導入	「栄養教育論実習Ⅰ」において、地元保育園・小学校で学外実習を行った。これにより、学生は園児・児童の発育、発達状況を学び、食教育の題材設定をはじめ教材の選定や対象者に適した栄養指導の重要性を認識することができた。	他地域や別の機会の食育活動へ作成した教材を活用するなど、教材の活用について検討することも必要である。
食育プログラム構築のための活動	学園祭での食育体験コーナーの出展	大学祭において、食育体験コーナーを出展した。運営は教員とあすなろ隊とで行った。親子連れや高齢者の来場が多く、出展内容としては来場者に対応したもので、概ね好評であった。	学生主体の企画・運営ができるように支援していく必要がある。

事業区分	担当事業	事業評価	課題
食育プログラム構築のための活動	教材の開発及び貸出	実用新案に登録された「食育カード」は、わかりやすい食育教材として、県内外の食育活動に幅広く活用されている。 食事と運動のエネルギーバランスをわかりやすく学習するための教材「食育てんびん “はかるくん” (実用新案登録)」については、県内外からの貸出のニーズが高まってきた。 各種教材、機器の貸出は、32回で楽しく分かりやすい教材として利用されている。	今後も多様な教材の開発を行う必要がある。 「食育てんびん “はかるくん”」の商品化を検討する必要がある。
	保育所・学校での活動	地元保育園や小学校、中学校、高等学校の食育活動を支援した。活動を通して学生は、食育の大切さ、食事のアドバイスをする喜びを感じることができた。	活動対象の選定、継続教育の検討も行う必要がある。
	地域での活動	神崎市との共催で子ども達への食育講座「食まなび塾」を実施し、市の食育推進に貢献した。 活動を通し、地域の子ども達とのコミュニケーション力の向上、対象者にあった教材作成の重要性を学ぶことができる学生主体の食育活動の良い機会となった。	今後も神崎市への支援を継続していく必要がある。
	活動の評価	平成 27 年度も学生による自己評価に関する意識調査を行った。これによると、平成 26 年度と比べ、企画力、創造力が向上していた。	
食育サポートセンター運営	広報活動	本学のホームページのトップに「食育サポートセンター」の活動報告を随時掲載し、情報発信を行っている。 (http://www.nisikyu-u.ac.jp/food/) 平成 26 年度に引き続き、家族だんらん 2015 「家族だんらんカレンダー」に食育サポートセンターの教材が掲載され、県内小学校新 1 年生に配布された。県内全域に食育サポートセンターの活動の一端を紹介することができた。	今後は更に、学外からのニーズに対応した情報提供の体制の充実を図る必要がある。

学生食育ボランティア「あすなろ隊」活動者の自己評価結果

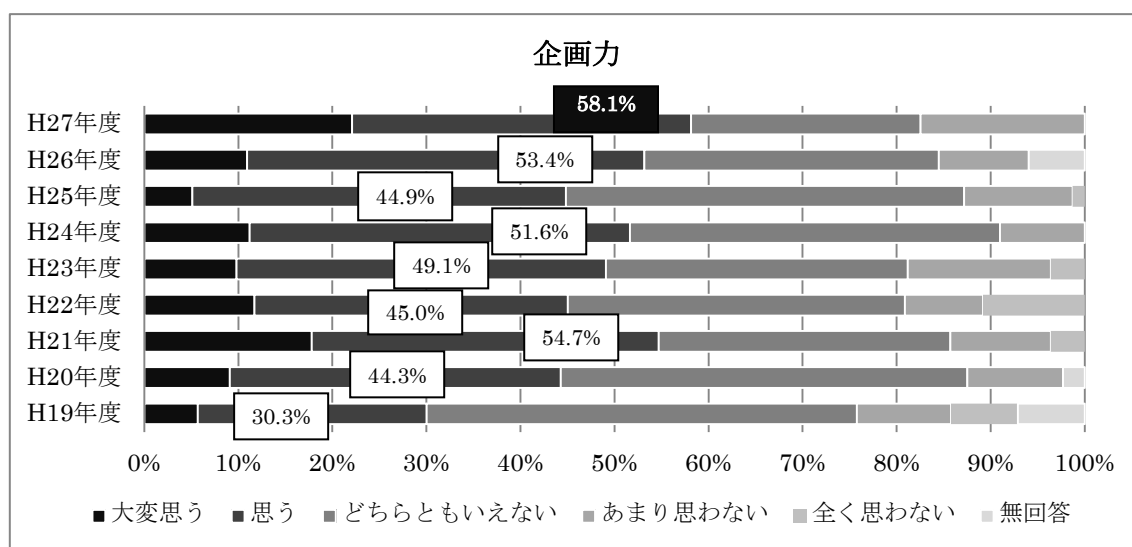
○自己評価の方法

対象：平成 27 年度にボランティアとして食育活動に参加した学生 86 名

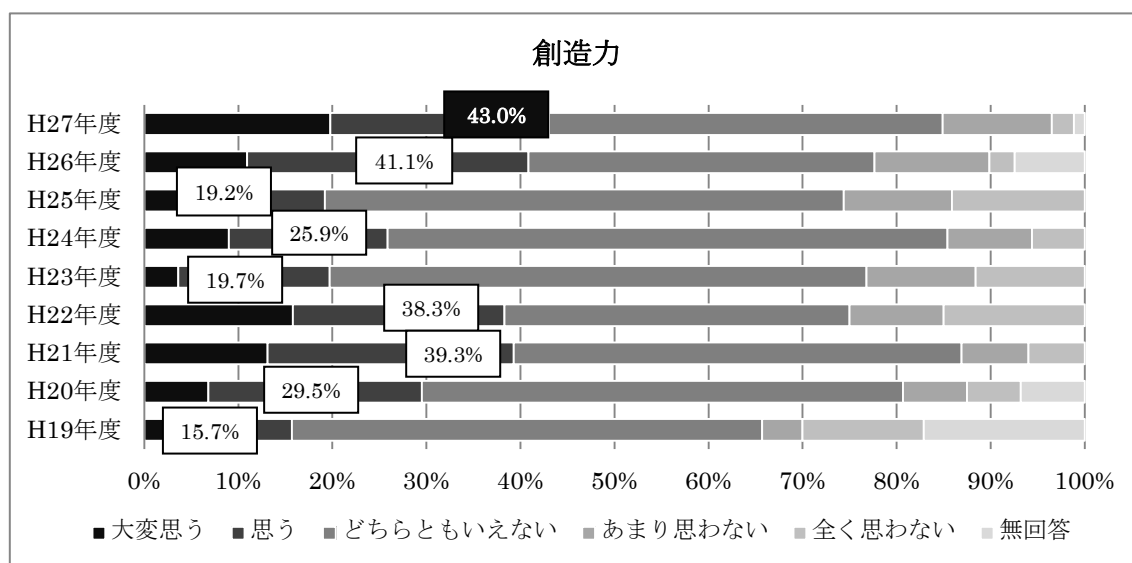
方法：企画力、創造力、コミュニケーション力、協働力、実践力の 5 つの項目について、自記式により 5 段階（5.大変思う、4.思う、3.どちらともいえない、2.あまり思わない、1.全く思わない）で評価

※表中のパーセンテージは、「5.大変思う」と「4.思う」の回答数の比率を示す。

◆**企画力**：活動を行うに当たっての一連の計画を立てる力や活動を円滑に進めていくための事前準備ができた。

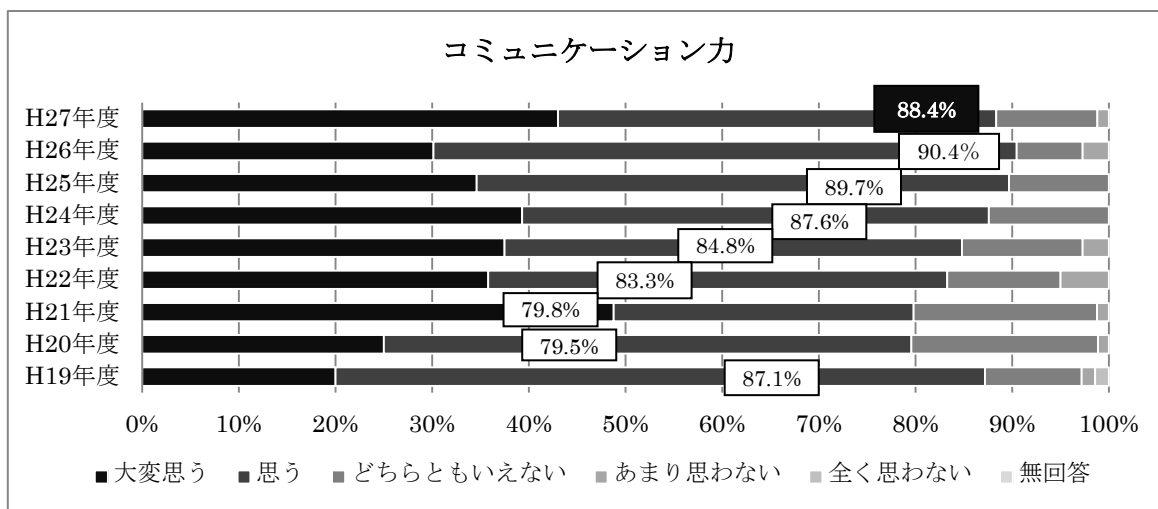


◆**創造力**：活動する際に必要な資料・媒体作成ができた。

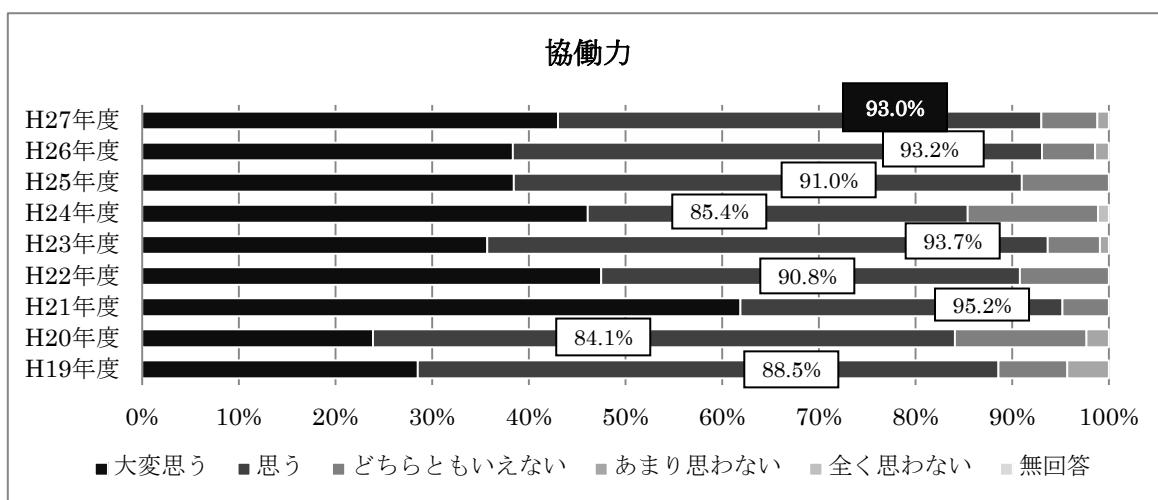


◆コミュニケーション力：

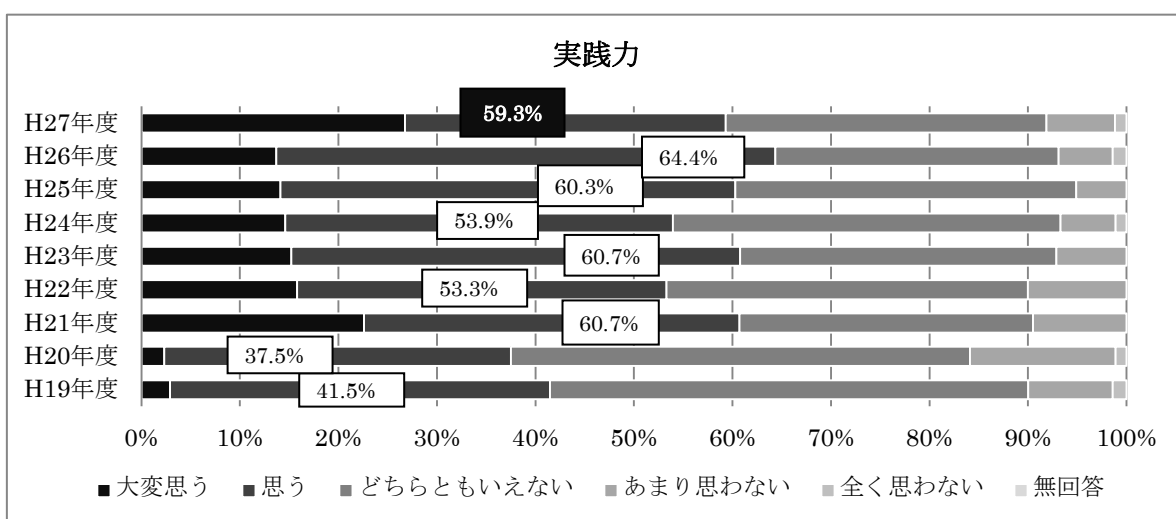
教育現場や地域での活動を通して、子ども達や地域の方達とのコミュニケーションのとり方を身に付けることができた。



◆協働力：活動現場において、仲間や指導教員等と協調して活動を進めることができた。



◆実践力：講義で身に付けた知識・技能を発揮できた。



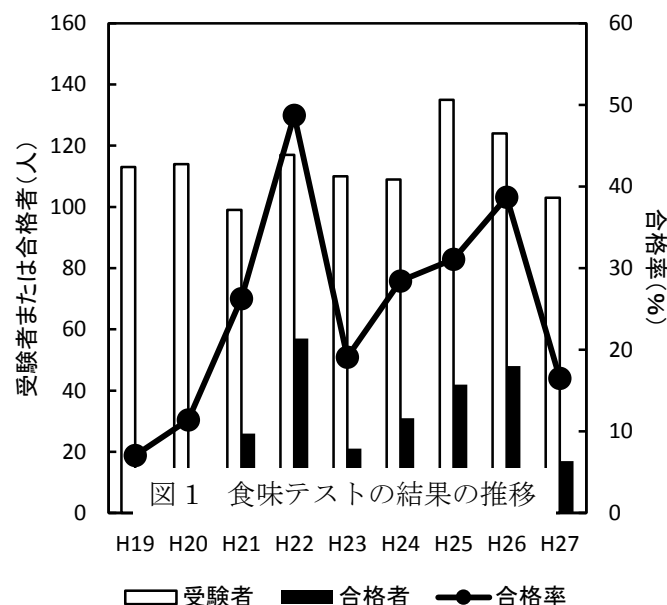
Ⅱ 味覚教育と専門教育の実施

1. 味覚教育

味覚は、ヒトの五感の一つであるが、将来管理栄養士になった場合に必要な能力の一つともいえる。健康栄養学科では、平成 19 年度から 1 年生を対象として食味テストを行っている。また、この検査は佐賀県産の極上海苔「有明海一番海苔」を選定する食味検査員の認定試験を兼ねて行っている。「有明海一番海苔」は、県と県有明海漁協が平成 19 年度から売り出された極上海苔で、消費者の視点から味を厳選してもらおうと検査員が募集された。学生にとっては、佐賀の特産である海苔について学ぶとともに、本物の海苔を味わうよい機会となっている。食味テストには、閾値に調製した塩化ナトリウムやカフェインなどの水溶液 5 種類と無味の水を飲み比べ、甘味、塩味、酸味、苦み、旨味を識別するという味覚テストと、3 種類の海苔を食べ比べて柔らかさの順序を判定する柔らかさのテストがある。味覚テストでは 4 味以上正解するか、3 味を正解し残りの 2 味で水を選ばなかった場合、さらに、海苔の柔らかさのテストでは、柔らかさの順序をすべて当てた場合に合格となり、「有明海一番海苔」食味検査員認定証が交付されることになっている。

今年度は、平成 27 年 7 月 8 日に実施し、103 名が受験した。このうち、17 名が合格し、合格率はわずか 16.5%と例年に比べて低くなった。これまでの食味テストの結果を図 1 に示す。累計すると受験者は千人を超え、合格者の合計は 263 人となった。合格率については、用いた海苔が毎年異なったりすることから単純に比較はできないが、平均すると 2 割から 3 割が合格となっており、難関の認定試験ともいえよう。

この検査を通して、日頃の味付けを薄味にしようと考え直す学生もおおり、味覚の重要性が伝わったと思われる。また、佐賀海苔のおいしさを知ること、近年消費が低迷している海苔の普及と消費拡大、つまり地産地消の推進にも貢献できたのではないと思われる。なお、今年度の食味試験の様子が新聞（佐賀新聞 2015 年 7 月 10 日）に掲載された。



のり食味見極め

検査員試験に 西九大生挑戦

（19）白石町は「簡単に分かつと思っていたけど、とても難しかった。自信はないが、合格したら有明海一番の食味検査にもぜひ参加したい」と話した。

同大の「あすなろ基礎演習」の一環として毎年実施し、今年で9回目。これまで延べ921人が受験して、合格率は26・7％。昨年は124人が受験し、合



3種類ののりを食べ比べ、柔らかさを見極める学生たち—神埼市の西九州大

神埼市 県産のりの最
高級品「佐賀海
苔（のり）有明海
選定する食味検査員試験
が8日、神埼市の西九州大
であった。管理栄養士など
を目指す健康栄養学科の1
年生105人が、微妙な味
覚の違いののりの食感を
分ける試験に挑戦した。

実施した試験は「甘み」「塩味」「うま味」など5
種類の味の成分を微量加えた
水と普通の水の合わせて8
カップから味を識別する味
覚判定と、採れた時期が異
なる3種類ののりを食べ比
べ、柔らかさを識別する食
感判定の2種類。学生は真
剣な表情で取り組み、微妙
な違いを見極めていた。

親戚がのり生産者で、小
さいころから食べ慣れてい
るといふ島ノ江佳さん

合格率38・7％だった。合格者は11月と1月に開かれる食味検査に参加する資格（5年間）を得る。
（瀬戸健太郎）

2. 専門教育

＜栄養教育論実習Ⅰにおける小学校・保育所への学外実習＞

目的 栄養教育論実習においてライフステージ別の集団栄養教育を学習するが、実際の対象を設定することが難しく、また教育の臨場感にも欠ける。また、「食育」を支える次の世代として子ども達の食の現状や食育の現場に携わることは非常に大切である。そのことから平成26年度に引き続き、集団栄養教育の内容を「食育」とし、神埼市内のちよだ保育園、神埼保育園、仁比山小学校に協力を頂き、園児・児童を対象とした学外実習を行った。

内容 1クラスはちよだ保育園、2クラスは神埼保育園の3・4・5歳児を対象とし、グループごとに担当クラスを決定した。3クラスは仁比山小学校1～6年生を対象とし、グループごとに担当クラスを決定した。日頃の児童の様子や食生活の問題点、食育授業の希望テーマを保育園においては園長から聞き取りを、小学校については担任を対象とした質問紙調査を実施した。担当クラスの園児・児童の発達段階や興味関心等を知ることがを目的に、ふれあい日を設定して授業の見学、昼休みには遊びを通して学生と児童の交流を行った。その後、対象児童に合わせた授業テーマを設定し、授業計画と教材を作成し、学内での模擬授業を行ない、実際の教育を行った。

各グループの教育テーマは、以下の通りである。

1 クラス	2 クラス	3 クラス
野菜・果物に興味をもとう	夏の野菜と果物を知ろう	食事のマナーを知ろう
野菜ができるまで	どうやって野菜ができるのか	好き嫌いをせずに食べよう
野菜の旬ってなに？	ごはんをしっかり食べよう	おやつの上手な選び方を学ぼう
好き嫌いをなくそう	季節の野菜について知ろう	朝ごはんの大切さを知ろう
からだと食べ物の関係	食べ物とうんちの関係を知ろう	給食はどうやって作られているのかを知ろう

日 時

＜ちよだ保育園＞ 平成 27 年 5 月 8 日（金）9：50～10：45 ふれあい日
1 クラス 平成 27 年 6 月 19 日（金）9：50～10：45 発表日

＜神埼保育園＞ 平成 27 年 5 月 18 日（月）14：40～15：30 ふれあい日
2 クラス 平成 27 年 6 月 29 日（月）14：40～15：30 発表日

＜仁比山小学校＞ 平成 27 年 5 月 20 日（水）12：35～13：35 ふれあい日
3 クラス 平成 27 年 7 月 1 日（水）12：50～14：15 発表日

学 生 栄養教育論実習Ⅰを履修した健康栄養学科 3 年生

1 クラス 40 名、2 クラス 44 名、3 クラス 49 名

引率教員 3 名

＜実習の教育的効果＞

普段、学生は園児・児童とふれあう機会が少なく、接する前は、不安や苦手意識が強い学生が多かった。ふれあい日に子どもたちとの交流することで、教科書で学んだ子どもたちの発達や発育の状況を実際に観察することで理解するとともに、担任の先生や保育士から日頃の子どもの様子を聴き、具体的な題材設定へと結びつけることができていた。また、授業の実践を通して、子どもたちの率直な反応に触れることで、教育を行うことの責任を感じ、達成感や今後の学習意欲の高揚にもつながっていた。

学生の感想の中にも「人に伝えることの難しさや大変さを感じた」、「園児・児童たちの反応を得ることで、栄養教育の楽しさに気付くことができ、自信がついた」、「栄養士の仕事・責任について考えることができた」等があり、実習での体験に意義を感じ、将来専門職として勤めるために何をどのように学んでいくべきか、考えるきっかけとなっていた。また、子どもたちに対して、「授業で伝えたことを実践して元気に成長してほしい」など、対象者の健康や幸せを願う気持ちを表す学生も多く、自分達の学びが人のためになるということにも気づき、専門職としての心構えを確立することができていた。

<今後の課題>

神崎市との食育連携を図るために、神崎市内にあるちよだ保育園と神崎保育園を実習園として選んだ。また、3 クラスは栄養教諭を目指すものがあることから対象を小学生とし、仁比山小学校において実習を行った。保育園、小学校ともに食育に積極的であり、先生方からも学生たちにご助言をいただくことができた。これまで園や小学校から交流の機会をご提案いただいたが、授業時間の関係から実現が叶わなかった。このような機会があれば参加したいという学生もいることから、他の保育園や小学校も含めて交流の機会と学生とのマッチングができれば、地域の食育にさらに関わることができると考えられる。活動の頻度や質を高めるためにも、本実習で作成した教材やコンテンツをライブラリ化するなどの検討が必要であると考えられた。



Ⅲ 学生食育ボランティアあすなろ隊

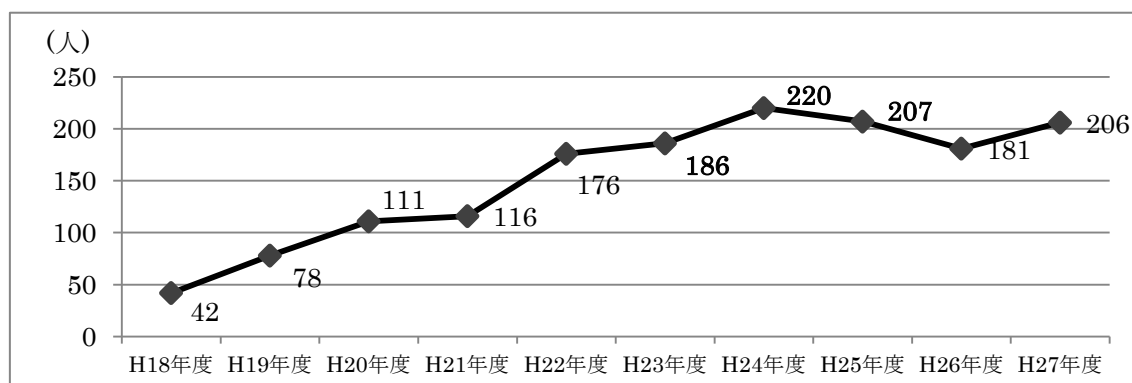
1. 隊員構成

永原学園の教育理念を象徴する言葉『あすなろ（翌檜）』は、学生が自らの可能性を信じ、自らの力によって、その持てる才能を開花させ、将来の大きな目標に向かって突き進む姿勢を意味する。

「学生食育ボランティアあすなろ隊」は、西九州大学に在籍する学生の有志で構成されており、施設や自治体の行事やイベントへ参加し、“あすなろう”の精神で、食の体験活動をサポートしている。

現在、1年生 53 名、2 年生 33 名、3 年生 40 名、4 年生 80 名の計 206 名の有志が活動している。（平成 28 年 3 月）

◆あすなろ隊員数の年次推移（平成 18 年度～平成 27 年度）



◆あすなろ憲章

私達あすなろ隊員は、以下の項目を遵守し、県内の保育園、学校、地域における食育推進ボランティア活動を通し、自らの資質・能力を向上させるとともに、子どもを中心とした食育の充実を図り、豊かな人間性や生きる力を身に付けさせ、地域の食育活性に取り組むことを誓います。

第一

保育所、幼稚園などで行われる食育活動に可能な限り積極的に参加し、西九州大学生としての誇りを持って活動します。

第二

現場での活動に関しては、幼児や児童の安全を第一に行動するとともに、自身並びに協働する方全員の安全を念頭において活動します。

第三

活動の推進にあたっては、指導教員・関連機関の指導を遵守しながら、自ら積極的に行動します。

第四

幼稚園、学校などの教育現場においては、現場の先生・職員の方々の指導に従い、協調して活動を進めます。

第五

講義で身に付けた知識・技術に加え、食育ボランティア活動を通して企画力・創造力・社会貢献力に更に磨きをかけ、自分の力とします。

IV 平成 27 年度の活動報告

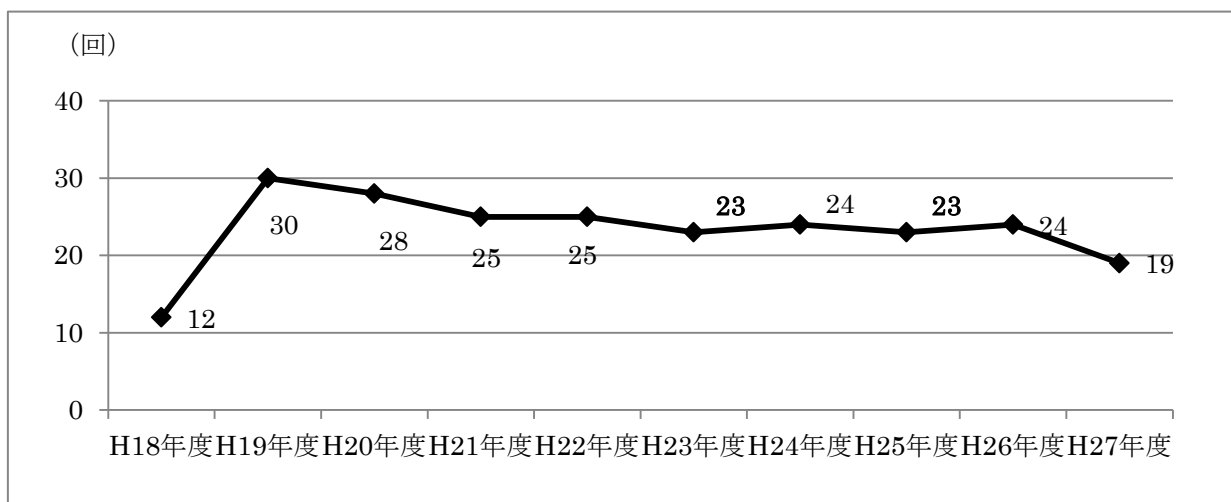
平成 27 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動一覧

	活動場所	活動日	行事名	活動者数	あすなろう 体験履修者等
1	地域	4 月 26 日 (日)	小城普茶料理食事会～春	あすなろ隊 3 名	
2		5 月 24 日 (日)	佐賀県さわやかスポーツ ・レクリエーション祭	あすなろ隊 4 名 教職員 5 名	健栄 2 名
3		7 月 5 日 (日)	食まなび塾①	あすなろ隊 6 名 教職員 4 名	
4		7 月 12 日 (日)	食まなび塾②	あすなろ隊 6 名 教職員 3 名	
5		7 月 19 日 (日)	食まなび塾③	あすなろ隊 7 名 教職員 5 名	
6		8 月 27 日 (木)	食育推進リーダー養成 講習会	あすなろ隊 6 名 教職員 7 名	
7		9 月 3 日 (木)	小城市普茶料理教室	あすなろ隊 3 名	
8		10 月 18 日 (日)	ばぶばぶフェスタ	あすなろ隊 7 名 教職員 2 名	
9		11 月 7 日 (土)	神崎市子どもまつり	あすなろ隊 4 名 教職員 3 名	健栄 3 名
10		11 月 22 日 (日)	小城普茶料理食事会～秋	あすなろ隊 2 名	
11		11 月 29 日 (日)	日曜糖尿病教室 (唐津)	あすなろ隊 5 名	
12		12 月 6 日 (日)	アバンセ子ども料理教室	あすなろ隊 5 名	
13		2 月 7 日 (日)	いまり食のまちづくり フォーラム	あすなろ隊 2 名	
14		2 月 21 日 (日)	たけおの食育まつり	あすなろ隊 3 名 教職員 2 名	
15	教育現場	7 月 17 日 (金)	鳥栖工業高等学校定時制 での食育講話	あすなろ隊 1 名 引率 1 名	
16		9 月 9 日 (水)	神埼保育園でのお茶教室	あすなろ隊 6 名 引率 1 名	
17		3 月 7 日 (月)	金立特別支援学校での 支援活動	あすなろ隊 3 名	
18	本学	10 月 24 日 (土) ～25 日 (日)	学園祭 「食育体験コーナー」	あすなろ隊 10 名 教職員 12 名	健栄 3 名
19		12 月 19 日 (土)	ほっとひろば西九大	あすなろ隊 5 名 教職員 2 名	

◆平成 27 年度食育サポートセンター・あすなろ隊活動の県内分布



◆活動回数の年次推移（平成 18 年度～平成 27 年度）



1. 活動報告①（食育推進リーダー養成講習会）

目 的 食育を栄養、調理、農業などの総合的な観点で推進する人材を育成し、関係団体、保育所、幼稚園、学校、地域等に派遣するため、「西九州大学、佐賀県及び佐賀県教育委員会における食育についての連携・協力協定書」第2条第2号に基づき食育推進リーダー養成講習会を実施する。

実施主体 佐賀県及び西九州大学食育サポートセンター

開催日時 平成27年8月27日（木） 13時～16時30分

開催場所 西九州大学佐賀キャンパス

参加者数 133名
（ヘルスメイト25名、ふるさと先生16名、学校関係者20名、幼稚園関係者6名、保育所等児童福祉施設関係者21名、市町行政関係者15名、県行政関係者11名、西九州大学関係者13名、西九州大学短期大学部関係者6名）

講習内容 「人を育てる食育！地域を育てる食育！～健康的な食生活の実践のために～」

時 間	内 容	場 所
13：00	開会 主催者挨拶（県・大学） 佐賀県くらしの安全安心課 課 長 中原吉朗 西九州大学健康栄養学部 学部長 柳田晃良	西九州大学 佐賀キャンパス 5201 大講義室
13：10	講演 「時間栄養学～体内時計と栄養・食の関係」 講師：早稲田大学理工学術院 教 授 柴田重信 氏 座長：西九州大学健康栄養学部 学部長 柳田晃良	
14：30	休憩	
14：40	事例発表 「佐賀県における食育の取り組みについて」 佐賀県唐津市立浜玉中学校 浜玉学校給食センター 栄養教諭・地産地消の仕事人 福山隆志 氏	
15：50	ミニディスカッション ・本日の2つのテーマについての感想 ・まとめ 進行：西九州大学健康栄養学部 講 師 船元智子	
16：30	閉会	

実施評価

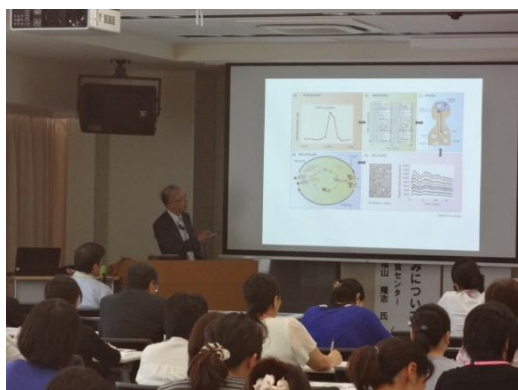
「人を育てる食育！地域を育てる食育！健康的な食生活の実践のために」をテーマに講習会を実施した。

講演は、時間栄養学～体内時計と栄養・食の関係について、体内時計とは何か、体内時計の異常と疾病との関係、また、いつ何を食べたらいいのか、私たちの生活と深く関わることであり、自分自身の生活習慣を改めて見直さなければと考えさせられる内容であった。

事例発表では、佐賀県における食育の取組みについて、「えいようのうた」の紹介、家庭・地域との連携事例や給食時間を授業ととらえた小学校の事例等の紹介があった。また、給食現場でのアレルギーへの対応と課題についての話もあり、学校給食での現状を共有し、課題を明らかにすることができた。

ミニディスカッションでは、講演、事例発表について、様々な感想や気づきを話し合い、所属の違うメンバーと情報交換するよい機会となった。時間栄養学の視点や、発表事例を参考に、今後の職場での業務に活かされることを期待する。

(講習会の様子)



2. 活動報告②（学生食育ボランティアあすなろ隊派遣活動）

1) 小城普茶料理食事会～春

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成 27 年 4 月 26 日（日）9 時～16 時

場 所：小城公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（約 70 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名

依 頼 先：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



佐賀新聞

(平成 27 年 4 月 28 日)

《あすなろ隊の感想》

- ・普茶料理はこの先も佐賀に残したい料理の一つ。もっと多くの若い人に料理について知ってほしい。
- ・コミュニケーションの取り方や、料理の出し方・タイミングなど多く学べた。

2) 佐賀県さわやかスポーツ・レクリエーション祭

活動内容：食育体験コーナーでの支援（食事バランス診断、食育てんびん「はかるくん」）

活動日時：平成 27 年 5 月 24 日（日）9 時～16 時

場 所：スポーツパーク川副（佐賀市）

対 象 者：来場者（約 700 名）

活動者数：あすなろ隊 4 名、あすなろう体験 2 名、教職員 5 名

依 頼 先：佐賀県スポーツ課



《あすなろ隊の感想》

- ・小さい子にも上手に説明ができるよう、たくさんの知識を身につけて話せるようになりたいと思った。
- ・多くの人と関わり、コミュニケーション能力の向上につながったと思う。

3) 鳥栖工業高等学校定時制での食育講話

活動内容：食育講話

活動日時：平成 27 年 7 月 17 日（金）16 時 30 分～18 時 30 分

場 所：鳥栖工業高等学校（鳥栖市）

対 象 者：生徒（60 名）、教員（約 30 名）

活動者数：あすなろ隊 1 名、引率 1 名

依 頼 先：鳥栖工業高等学校定時制



《あすなろ隊の感想》

- ・高校生とはいえ、働きながら学ぶ生徒ばかりで、集中力と積極性が高く、充実した食育講話が行えた。

4) 小城市普茶料理教室

活動内容：①普茶料理の歴史についての講話

②調理実習のサポート

活動日時：平成 27 年 9 月 3 日（木）9 時～14 時

場 所：小保健福祉センター「桜楽館」（小城市）

対 象 者：小城市民（16 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名

依 頼 先：小城市役所健康増進課



《あすなろ隊の感想》

- ・普茶料理についてもっと詳しく知ることができた。また機会があれば参加したい。
- ・普茶料理では様々な技法が使われていて勉強になった。昔から伝わる技術や文化を伝えていくことを今後の活動でもしたい。

5) 神埼保育園でのお茶教室

活動内容：①煎茶の淹れ方のサポート

②水分の摂り方についての講話

活動日時：平成 27 年 9 月 9 日（水）13 時 30 分～16 時

場 所：神埼保育園（神埼市）

対 象 者：園児（16 名）

活動者数：あすなろ隊 6 名、引率 1 名

依 頼 先：NPO 法人活気会 食育部会



《あすなろ隊の感想》

- ・自分たちがわかっていることを人に伝えることの大変さを改めて感じた活動だった。
- ・園児に伝わるような言葉遣いでのシナリオが準備できていなかった。また今度このような機会があれば積極的に参加して、事前準備や、当日の動きなど自ら行動していけるようにしたい。

6) ばぶばぶフェスタ

活動内容：食育体験コーナーでの支援（食育すごろく、匂ってみよう、触ってみよう）

活動日時：平成 27 年 10 月 18 日（日）9 時 30 分～16 時 30 分

場 所：佐賀県立男女共同参画センター・アバンセ

対 象 者：来場者

活動者数：あすなろ隊 7 名、教職員 2 名

依 頼 先：佐賀県、佐賀新聞社



《あすなろ隊の感想》

- ・匂ってみようでは、年齢によって匂ったことがない匂いがあることを知った。親御さんに匂いのかがせる大切さを知ってもらえる事が出来た。
- ・大人の方も体験され、言葉遣いなど気をつけることができた。
- ・小さい子ども達と触れ合えて楽しかった。

7) 神崎市子どもまつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援

（食育すごろく、食育てんびん「はかるくん」、野菜クイズ、魚釣りゲーム）

活動日時：平成 27 年 11 月 7 日（土）9 時～16 時 30 分

場 所：神埼中央公園体育館

対 象 者：来場者（389 名）

活動者数：あすなろ隊 4 名、あすなろう体験 3 名、教職員 3 名

依 頼 先：神崎市子どもまつり実行委員会



《あすなろ隊の感想》

- ・楽しくないとすぐ飽きるけど、気に入ったら何回も繰り返して遊ぶ子ども達の反応がおもしろかった。魚クイズで魚を覚えてくれた時は嬉しかった。
- ・もう少し大人の人にもしっかりと説明ができるように頑張りたい。

8) 小城普茶料理食事会～秋

活動内容：伝統料理普及活動の支援（調理・盛り付け・配膳・接待・後片付け）

活動日時：平成 27 年 11 月 22 日（日）9 時～16 時

場 所：小城公民館晴田支館（小城市）

対 象 者：食事会にお越しのお客（約 60 名）

活動者数：あすなろ隊 2 名

依 頼 先：祥光山星巖寺伝承「普茶料理おぎ春香会」



《あすなろ隊の感想》

- ・食事に来られたお客様から、担当していなかった料理の作り方を聞かれ、料理についてさらに知識が必要だと思った。秋のメニューは色鮮やかでとても素敵だった。
- ・歴史ある普茶料理だが、参加者に若い人がいなかったのが残念だった。今回の活動をきっかけに普茶料理のことを学んで、これからの世代の人にも伝えられたらと思った。

9) 日曜糖尿病教室

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム、食育てんびん「はかるくん」）

活動日時：平成 27 年 11 月 29 日（日）9 時～14 時

場 所：唐津市民交流プラザ（唐津市）

対 象 者：来場者（100 名）

活動者数：あすなろ隊 5 名

依 頼 先：唐津保健福祉事務所



《あすなろ隊の感想》

- ・「食事や運動を見直します」と話す来場者の方が多く、改善への意欲が見られた。私も人の心を動かすことのできる人になりたいと思った。
- ・来場者の方々はとても健康志向が強く、話をしていてとても刺激になった。
- ・大学での学びを活かし、来場者の方に血糖値の仕組みと糖尿病について説明できた。

10) アバンセ子ども料理教室

活動内容：子ども料理教室の支援

（準備、調理、後片付けの指導・補助）

活動日時：平成 27 年 12 月 6 日（日）8 時 45 分～13 時 15 分

場 所：佐賀県立男女共同参画センター・アバンセ（佐賀市）

対 象 者：小学校 3・4 年生とその母親（12 組）

活動者数：あすなろ隊 5 名

依 頼 先：佐賀県立男女共同参画センター・アバンセ



写真提供：

（公財）佐賀県女性と生涯学習財団

《あすなろ隊の感想》

- ・料理教室のアシスタントとして参加できたため、子ども達に対する指導の仕方や接し方を学ぶことができて良かった。
- ・子ども達のサポートをしている時は本当に楽しく思い出になった。将来の目標である管理栄養士や、栄養教諭へつながりたい。

11) ほっとひろば西九大

活動内容：クッキングコーナーでの支援（デコレーションケーキ作り）

活動日時：平成 27 年 12 月 19 日（土）9 時 30 分～14 時

場 所：西九州大学佐賀キャンパス

対 象 者：子ども（9 名）

活動者数：あすなろ隊 5 名、教職員 2 名



《あすなろ隊の感想》

- ・小さい子はもちろん高校生も楽しんできたみたいで嬉しかった。それぞれの個性が出ていてみているのがおもしろかった。
- ・子ども達が自由に楽しそうにケーキをデコレーションしていたのを見て、事前にしっかり準備した甲斐があった。

12) いまり食のまちづくりフォーラム

活動内容：食育体験コーナーでの補助（食育 SAT システム）

活動日時：平成 28 年 2 月 7 日（日）9 時～14 時

場 所：立花公民館（伊万里市）

対 象 者：来場者（118 名）

活動者数：あすなろ隊 2 名

依頼先：佐賀県栄養士会伊万里支部



《あすなろ隊の感想》

- ・来場者の男性にカリウムが摂取できない病気はどんなものがあるか聞かれたとき、すぐに答えられなかった。知識をすぐに引き出せるように勉強を続けたいと思った。
- ・反省点として、質問されたことにうまく答えることができなかった。

13) たけおの食育まつり

活動内容：食育体験コーナーでの支援（パソコン de クイズ、野菜クイズ、魚釣りゲーム）

活動日時：平成 28 年 2 月 21 日（日）9 時～13 時

場 所：武雄市文化会館

対 象 者：来場者（335 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名、教職員 2 名

依頼先：武雄市くらし政策課



《あすなろ隊の感想》

- ・小さな子どもからお年寄りの方まで接することができ、年齢によって話し方や声の大きさを変えたりすると良いことなどたくさんを学べた。
- ・初めはどう声をかけたらよいかわからないところもあったが、先生方の姿を見て学ぶことができ、楽しめた。

14) 金立特別支援学校での支援活動

活動内容：卒後講話での補助（食育 SAT システム）

活動日時：平成 28 年 3 月 7 日（月）13 時～15 時

場 所：金立特別支援学校

対 象 者：高等部 3 年生（7 名）

活動者数：あすなろ隊 3 名

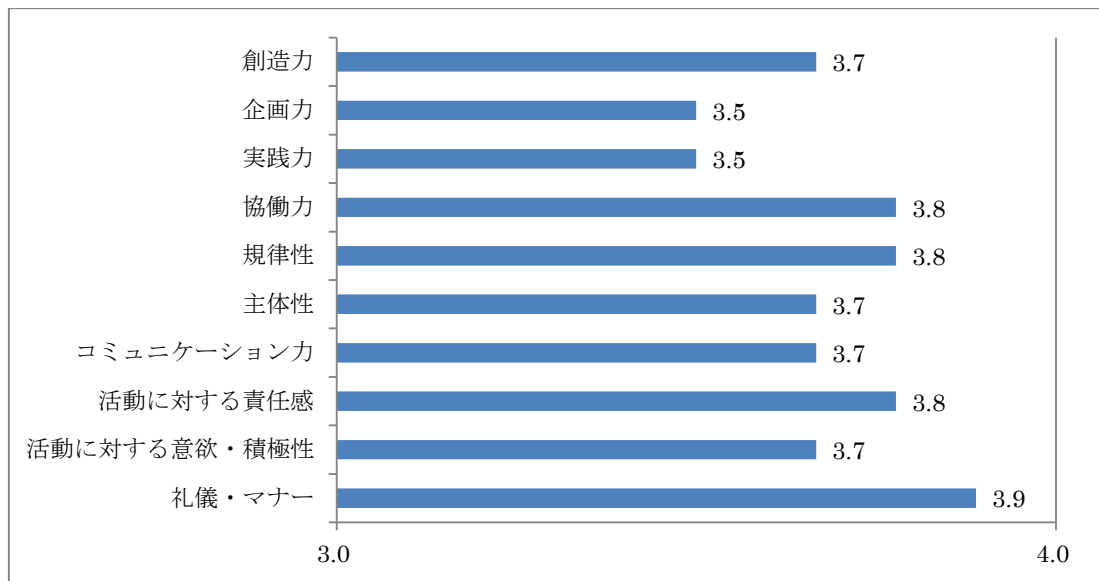
依頼先：金立特別支援学校



《あすなろ隊の感想》

- ・生徒の皆がとても元気で明るくて、私も元気がもらえた。
- ・生徒さん達が興味を持ってくれ、積極的に取り組んでくれたので良かった。
- ・講義の進め方など、とても参考になった。また機会があれば、ボランティアに行きたいと思った。

◆◇◆学生食育ボランティアあすなろ隊派遣に関する派遣先からの評価◆◇◆



(評価方法)

対象：平成 27 年度学生ボランティアあすなろ隊派遣先 9 団体

方法：④十分に備えている ③ある程度備えている ②あまり備えていない ①全く備えていない

派遣先からのコメント

- *いつもご協力ありがとうございます。慣れないこと、忙しいことで大変だったと思います。また来たいと思っていただき嬉しく思います。
- *学生様にはお忙しい中、講演前に一度来校され、生徒の様子や雰囲気などを理解された後に講演内容を決定されるなど、誠実な人柄や講演に対しての真剣な取り組みが感じられました。講演は、落ち着いて、はっきりした口調で堂々とされ、わかりやすく、生徒・職員に好評でした。とても良かったので、来年もよろしくお願いします。
- *まじめに取り組んでいただき、講話についてもよくまとめられていたと思います。また、参加者の方々と積極的にコミュニケーションをとられていたと思います。ありがとうございました。今後とも協力いただければと思っています。よろしくお願いします。
- *1 年生なのに慣れない栄養指導をされることをお願いしました。学生様の様子をこちらも考慮しないといけなかったと思いますが、大学でもしっかり練習をしていただきたかったです。
- *積極的に関わっていただきありがとうございます。今後の活動に少しでも役に立つことがあれば嬉しく思います。
- *タイトなタイムスケジュールの中、準備からテキパキと迅速に作業をしていただきました。忙しく指示のある中、子どもたちの調理をサポートするのはとても大変だったのではないかと思います。そのような中でも、優しく声をかけていただいたおかげで、初めは緊張していた子ども達も次第に笑顔を見せ、楽しく調理や後片付けに取り組むことができました。ありがとうございました。
- *当初 5 名の派遣から 2 名となられ、さぞかし心細かったのではという心配をよそに、終始笑顔で親しみやすく、来場者の住民さんと温かくテキパキと対応されている姿に感心致しました。

3. 活動報告③ (学園祭)

活動内容：食育体験コーナー

(食育すごろく、魚釣りゲーム、聞いてみよう、匂ってみよう、触ってみよう、見て考えよう)

活動日時：平成 27 年 10 月 24 日 (土)・25 日 (日) 9 時～17 時

場 所：西九州大学神埼キャンパス コミュニティホール

対 象 者：約 70 名 (体験コーナー来場者)

活動者数：あすなろ隊 10 名、あすなろう体験 3 名、教職員 12 名

◆食育すごろく



◆魚釣りゲーム



◆聞いてみよう、見て考えよう



◆匂ってみよう



◆触ってみよう



●食育すごろく
食生活について学ぼう!!

●魚釣りゲーム
魚について知ろう!!

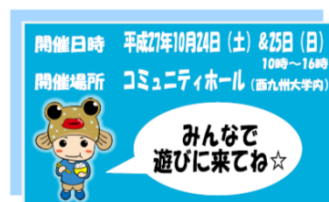
●聞いてみよう
何の音かな??

●匂いをかいでみよう
どんな匂いをするかな??

●触れてみよう
何の食材かな??

●見て、考えよう
食育クイズに挑戦!!

食育体験コーナー



(パンフレット掲載チラシ)

《あすなろ隊の感想》

- ・来場者の年齢層が広く、その相手によって話し方を変えたりするのが少し大変だったけど、コミュニケーションをとる上で大切なことだと改めて学ぶことができた。
- ・なかなか自分から声をかけることができなかったのが反省点。
- ・小さな子ども達との接し方が難しかったが、とても良い勉強になった。
- ・他の人と協力し、子どもや来て下さった方々とコミュニケーションをとりながら楽しく活動できた。

4. 活動報告④（神埼市内の施設を利用した食育活動「食まなび塾」）

目 的 本学学生の地域でのボランティア活動により、児童に食育で育みたい力（マナー、料理のスキル、食文化など）を楽しく、実践させることを目的とする。本事業は、神埼市中央公民館を活用して行うこととし、市の食育推進に寄与するものとする。

実施主体 神埼市・西九州大学食育サポートセンター

開催日時 1回目：平成27年7月 5日（日）10時～12時
2回目：平成27年7月12日（日）10時～12時
3回目：平成27年7月19日（日）10時～12時

開催場所 神埼市中央公民館

対象者数 神埼市及び佐賀市内の園児・小学生7名
（園児2名、小学2年生1名、小学4年生2名、小学5年生2名）

内 容

回	内 容
1回目	○味覚（旨味）体験 ○だしとり体験
2回目	○手洗いについて ○食事のマナーについて
3回目	○おやつについて、野菜について ○野菜を使ったおやつを作ろう

活動者数 あすなろ隊10名、教職員5名

評価

1回目は味覚（旨味）について様々な手づくり教材を使って学習した後、かつお節を自分たちで削り、それを使って、かつお・昆布の混合だし作りを体験した。また、五つの基本味についても体験してもらった。2回目は、正しい手洗いの方法や箸の持ち方、食器の並べ方等食事マナーについて学ぶとともに手洗い体験をしてもらった。3回目は、おやつについてと野菜を食べる大切さを学習し、野菜を使ったおやつの調理実習を行い、料理をすることの楽しさや野菜を食べる体験をしてもらった。

講座の内容や使用教材は、あすなろ隊を中心に考案した。子ども達の反応や取り組む姿など児童との交流を通して学んだことも多く、課題と反省もあった。この経験を学生主体の食育活動としていかに取り入れていくか今後の進展に期待したい。



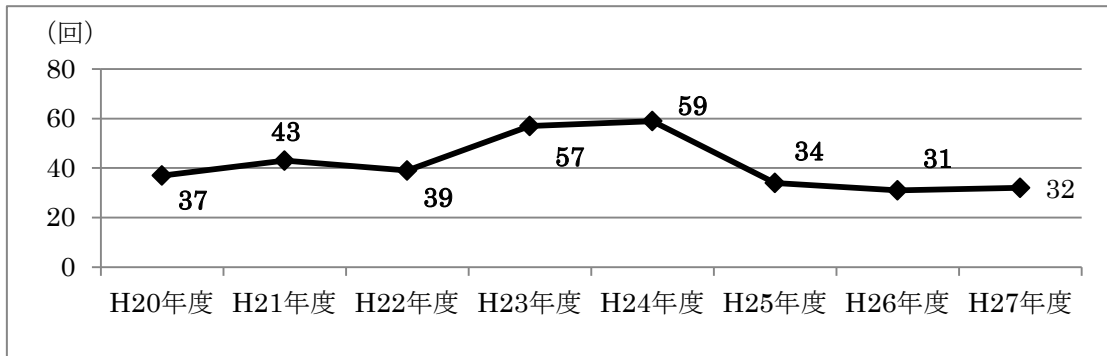
5. 活動報告⑤（学生組織の各グループの活動）

◎「きずなレポーターグループ」の活動報告

活動内容	・昨年度に引き続き、県事業への協力。 ・県内の農産物直売所、県産農産物を使った加工品などを県ホームページ「きずなのひろば」のブログへ書き込み、食と農に関する情報を発信した。 ・農業現場や加工現場へ出向き、新たな発見や生産者の思いなどをレポートし、県メールマガジン「がばい☆きずな」へ原稿を提供した。																		
活動期間	平成 27 年 5 月 15 日～平成 28 年 3 月 31 日																		
活動者数	5 名																		
ブログ書き込み	ブログ書き込み回数：36 回																		
現地レポート	メールマガジン掲載回数：5 回（1 人 1 回） <table> <tr> <th>掲載日（号）</th><th>訪問先</th><th>アドレス</th></tr> <tr> <td>9 月 15 日 （第 203 号）</td><td>佐賀市諸富町 山領ファーム</td><td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/09/_203.php</td></tr> <tr> <td>10 月 1 日 （第 204 号）</td><td>唐津市浜玉町 きくらげ生産者</td><td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/10/_204.php</td></tr> <tr> <td>10 月 15 日 （第 205 号）</td><td>佐賀市 和桃</td><td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/10/_205.php</td></tr> <tr> <td>1 月 15 日 （第 211 号）</td><td>佐賀市久保田町 思斉館小学部</td><td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2016/01/_211.php</td></tr> <tr> <td>3 月 1 日 （第 214 号）</td><td>佐賀市兵庫町 なす農家</td><td>http://www.kizuna-saga.jp/blog/2016/03/_214.php</td></tr> </table> きずなレポートの掲載レポート 佐賀市諸富町「きくらげ」栽培の現場！ レポーター：まっちん 佐賀市 中城中央町 山領ファーム（佐賀県佐賀市） 佐賀市 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 きくらげの栽培現場へ行って、きくらげの栽培の様子を見てきました。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。 きくらげの栽培現場へ行って、きくらげの栽培の様子を見てきました。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。 きずなレポートの掲載レポート 佐賀市久保田町「きくらげ」栽培の現場！ レポーター：まっちん 佐賀市 中城中央町 山領ファーム（佐賀県佐賀市） 佐賀市 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 きくらげの栽培現場へ行って、きくらげの栽培の様子を見てきました。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。 きくらげの栽培現場へ行って、きくらげの栽培の様子を見てきました。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。 きずなレポートの掲載レポート 佐賀市久保田町「きくらげ」栽培の現場！ レポーター：まっちん 佐賀市 中城中央町 山領ファーム（佐賀県佐賀市） 佐賀市 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 唐津市浜玉町 きくらげの栽培現場へ行って、きくらげの栽培の様子を見てきました。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。 きくらげの栽培現場へ行って、きくらげの栽培の様子を見てきました。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。きくらげの栽培は、きくらげの苗を植えて、きくらげの収穫を待つという簡単な作業です。	掲載日（号）	訪問先	アドレス	9 月 15 日 （第 203 号）	佐賀市諸富町 山領ファーム	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/09/_203.php	10 月 1 日 （第 204 号）	唐津市浜玉町 きくらげ生産者	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/10/_204.php	10 月 15 日 （第 205 号）	佐賀市 和桃	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/10/_205.php	1 月 15 日 （第 211 号）	佐賀市久保田町 思斉館小学部	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2016/01/_211.php	3 月 1 日 （第 214 号）	佐賀市兵庫町 なす農家	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2016/03/_214.php
掲載日（号）	訪問先	アドレス																	
9 月 15 日 （第 203 号）	佐賀市諸富町 山領ファーム	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/09/_203.php																	
10 月 1 日 （第 204 号）	唐津市浜玉町 きくらげ生産者	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/10/_204.php																	
10 月 15 日 （第 205 号）	佐賀市 和桃	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2015/10/_205.php																	
1 月 15 日 （第 211 号）	佐賀市久保田町 思斉館小学部	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2016/01/_211.php																	
3 月 1 日 （第 214 号）	佐賀市兵庫町 なす農家	http://www.kizuna-saga.jp/blog/2016/03/_214.php																	
今後の課題	生産・加工・流通・販売等の見学で現場を知り、情報の収集、発信を行うことは管理栄養士にとってよい経験となる。参加学生の拡大を図りたい。																		

7. 教材の貸出状況

◆教材貸出回数の年次推移（平成 20 年度～平成 27 年度）



① 食育 SAT システム（貸出回数 11 回）

貸 出 先	利 用 目 的	貸出回数
佐賀市立若楠小学校	授業	1 回
佐賀県立唐津特別支援学校	授業	2 回
やよいがおか鹿毛病院	事業（お仕事探検隊）	1 回
佐賀県立金立特別支援学校	授業	3 回
大木町役場	イベント（健康フェア）	1 回
佐賀県立盲学校	授業	1 回
唐津保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室）	1 回
佐賀県栄養士会	イベント（いまり食のまちづくりフォーラム）	1 回

② 食育天びん “はかるくん”（貸出回数 4 回）

貸 出 先	利 用 目 的	貸出回数
佐賀中部保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室）	1 回
久留米市保健所	イベント（久留米大学大学祭）	1 回
東伊豆町保健福祉センター	イベント（健康福祉ふれあい広場）	1 回
唐津保健福祉事務所	事業（日曜糖尿病教室）	1 回

③ その他の教材（貸出回数 17 回）

貸出教材名	貸出先	利用目的	貸出回数
はてな ボックス (4 回)	野菜ソムリエコミュニティ佐賀	事業（キッズ野菜ソムリエ 教室、親子ふれあい活動）	2 回
	佐賀市立若楠小学校	授業	1 回
	大溝保育園	イベント（おおきっ子まつり）	1 回
食育輪投げ (4 回)	野菜ソムリエコミュニティ佐賀	事業（親子ふれあい活動）	1 回
	佐賀市立若楠小学校	授業	1 回
	太良町役場	事業（子どもクッキング教室）	1 回
	牛津小学校	授業	1 回
野菜クイズ (4 回)	野菜ソムリエコミュニティ佐賀	事業（キッズ野菜ソムリエ教室）	1 回
	佐賀市立若楠小学校	授業	1 回
	太良町役場	事業（子どもクッキング教室）	1 回
	牛津小学校	授業	1 回
食育 すごろく (2 回)	西九州大学 ESRD サークル	事業（あそびフェスタ）	1 回
	佐賀市立若楠小学校	授業	1 回
グリッター バッグ (2 回)	西九州大学 社会福祉学科	授業	2 回
魚釣り ゲーム (1 回)	牛津小学校	授業	1 回

◎貸出先からの感想

食育 SAT システム

- ・サンプルが本物のようで、生徒は意欲的に学習していた。星の数を楽しみにしながら、料理を選んだり変更したりしていた。とてもよい機材であった。
- ・実物大のフードモデルを使用していたので、対象者の方にもわかりやすく、また、結果を用紙に印刷できるので、結果をもとに食事指導を行えた。
- ・食品サンプルがあることでイメージしやすく、栄養を考えながら一人一人メニューを選ぶことができた。

食育天びん “はかるくん”

- ・小さい子どもから大人まで誰でも扱えて反応も良く、とても良いブースとなった。
- ・一般の方にも理解しやすい媒体で、参加者の方の興味も高く、効果的に活用できた。

その他の教材

- ・「見えない野菜を手で触って当てる」という行為がドキドキ・ワクワクと周りのお友達の応援で子どもたちは満面の笑みで体験していた。（はてなボックス）
- ・食事のバランスを学習するために実施する赤・緑・黄ごとの食品（料理）の区別ができ、食事のときには気がけて食べることができるよう意識の変容ができた。（食育輪投げ）
- ・感染予防への意識が高まり、授業へ熱心に取り組む動機づけとなった。

（グリッターバッグ）